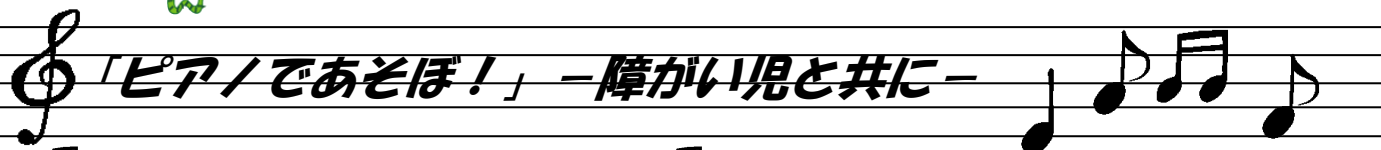




ふくろう通心



♪ 音楽療法士 桜庭由美さんにお話を聞きました♪

「この子供たちはなんて自由で、楽しく音楽を表現するのだろう」と感じたのは、障がい児とふれあい始めたころだそうです。桜庭さんは自宅で音楽教室(どれみミュージッククラブ)を開いているのですが、ある時、障がいのある子どもにピアノを教えるのを頼まれ、すんなりと受け入れることが出来たと言います。

しかし実際やってみると、冷蔵庫や押入れを開け、隣の部屋の探索に夢中でなかなかレッスンにならなかったそうです。障がいのある子どもと、どのように関わりを持たせよいいのか勉強が必要だと痛感した桜庭さんは、バイオミュージック学会(現日本音楽療法学会)に入会し、音楽療法士になりました。

『音楽療法とは音楽を教える>というものではありません。例えば、体を動かす時、1、2・・・と号令をかけて動かすのでは動かされているという感じがしますが、音楽と一緒に自分の意思で体が自然に動いて表情も豊かになってきます。そのうちに持続力にもつながっていきます。音楽は自分の気持ちを伝えるのがむずかしい子どもでも自分を表現しやすい、最も良い手段なのです。』

じっとしていることが苦手な部屋を出て行ってしまふ子も、好きな曲が聞こえてくると部屋に戻ってじっと耳を傾けるという、癒しや喜びを与えてくれる音楽を桜庭さんは治療として使っており、細心の注意を払いながら行っているとのことでした。



『初めての発表会では、子どもはもちろん親も、私も本当に緊張していました。いつもと違う中で、一人で前に出てお辞儀は出来るのか?ピアノは弾けるのか?リハーサルを含めかなり長い時間がかかるけど大丈夫なのか?とても不安でした。発表の場を経験することは、どの子にとっても試練であり同時に喜びです。この子供たちがたくさん拍手をもらい、達成感や自信を得たことは私にとっても宝物です。』



音楽を深く理解し、子どもが好きだからこそ出来ることだと、スタッフ一同おおいに感銘を受けたお話でした。

【ボランティア募集】発表会の時やピアノ教室内で、お手伝いをしてくれる方を募集しています。詳細については 桜庭由美 34-3285 までお問い合わせください。



『つなみ』という本をご存知ですか?

震災当時の様子、被災地の景色、そして、それ以降の心情等が、大震災を経験した子供たちの目線で見つづられている作文集(文藝春秋8月臨時増刊号)です。

「つなみ」を通してボランティアについて考えました。

産業、経済、暮らし……被災地の復興をはじめ、日本全体を見渡すと、私達が向かい合う問題は山積みです。と同時に、私達にできることも、すぐ近くにたくさんあります。

被災された方々はもちろん、私達も一生懸命頑張っている一人です。

毎日を大事に、また、人(自分、周囲の人達)を大事にしていくことが、ボランティアを継続していく中で、常に心に留めておきたいことだと思いました。人を思いやったその時から、ボランティアは始まります。

ボランティアに参加してみて

弘前市ボランティア支援センター主催の弘前市立病院で一日体験ボランティアに参加しました。その日は他の参加者の方々と一緒に、シーツ交換や車いすの操作などの体験をさせていただき、病院の職員の方から病院ボランティアの説明を受けました。その中で、市立病院では様々な内容の病院ボランティアが活動されているという説明を聞き、私は移動図書ボランティアとしてその後も活動させていただくことになりました。その二カ月程後から、病院ボランティアとして移動図書のお仕事をさせていただくことになり、はじめは不安もありましたが、ずっとそばでアドバイスをしてくれ、見守ってくださった先輩ボランティアや、病院の職員の方、そして「ありがとう」と言ってくれる患者さん達のおかげで少しずつ仕事にも慣れることができました。自分が何かを「してあげる」というよりも、ボランティア活動を通してこちらの方が成長させていただいているように感じます。

岩間 弥菜

市立病院で「移動図書ボランティア」をしてみませんか？病室の患者さんに本の貸出しをする活動です。やってみたい方は、ボランティア支援センターまでご連絡ください。
(38-5595)

たくさんの善意から

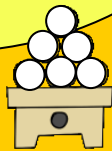
ミドリ安全青森株式会社青森支店様より防じんマスク200枚の寄付をいただき、被災地での活動に役立たせていただきました。ご協力ありがとうございました。この様に現地での活動を地元で支える「ボランティアのボランティア」もあります。私達の小さな思いやりで、身近でできる支援から始めてみませんか？
ボランティアスタッフ

豆知識

グレープフルーツジュースと薬

薬を飲む時、グレープフルーツジュースと一緒に飲むはいけないということは、割と知られている事ですが、さて何故いけないかということをご存知でしょうか？

実はグレープフルーツジュースには肝臓の働きを弱める作用があるため一緒に飲んだ薬が分解されにくくなり、大量の薬を飲んだのと同じ状態になってしまうのです。なので、薬はなるべく水か白湯で飲むようにしましょう。お子さんの場合は特に気をつける必要があるかも知れませんね。
ボランティアスタッフ



活動紹介コーナー リボンの会



私達の「リボンの会」は精神保健福祉ボランティアの会として平成16年にできました。心に病をもった人達に何か手助けができたらと思う者の集まりです。以前に比べたら心の病の存在は知られるようになったものの、正しく理解されずに無理をする人も多いようで、生きづらさを感じている方も少なくないようです。

私達は今、地域活動支援センター、病院デイケアで依頼を受けて活動しています。デイケアは心に病をもった人達が集まっています。スポーツ、作業、クラブ、行事等に参加したり話をしたり、時には一人静かに過ごしたりと、人の目を気にすることなく過ごせる安心できる所です。それなりのルールに基づいて、心のリハビリの場、社会復帰へのステップの場となっています。

私達は一緒に活動をして、同じ時を共にしています。
リボンの会 軍司 芳子

連絡先：リボンの会代表
鳴海 53-9616

HOT! 街かど

7月17日 日曜日。3回目の弘前マルシェ「FORET(フォーレ)」。通りはまっすぐ、沢山の店、野菜、果物、漬物、お菓子等々が並んでいる。アツという間に買物袋が一杯になった。すると目の前に人だかりが…。大道芸!! 珍しい。イケメンの青年3人が交互に、それぞれの道具を使い演技する。時々、見物客の間から、お一つと感動の声、失敗すると励ましの拍手。彼らは弘大生との事。今後も色々な場で演技してもらえたら、そして又是是非お目にかかりたい。
ボランティアスタッフ

編集後記

学習センターにボランティア支援センターが発足して8年が経過しました。その間、事務局が文化センターに移転し、今年4月からは市民参画センターへと移転しました。環境の変化に左右されつつも、今回「ふくろう通心」33号が完成し嬉しかったです。私はボランティアスタッフとして参加する事によって、最低一つは必ず自分の知識として身につけている事を実感しています。読者の皆様、ボランティアに参加してみたいかがでしょう。
ボランティアスタッフ